

そうそうしゅうぞく
■葬送習俗

葬列は棺を墓場に運ぶだけでなく、死者を他界へ送り出すための重要な儀礼です。棺をのせた輿こしとともに、供物や礼拝道具など旅立ちに必要なものを伴いました。親族や地域の人々も葬列に加わり、墓地まで送り、僧侶が死者へ最後の宣告をして、迷いから仏道へ導き、他界へ送り出しました。



お坊さん



念仏講用具（数珠箱・数珠・檀木・鉦） 阿弥陀寺蔵



葬列と輿 昭和34年 小高町（現小高区）田町

■死者と生者の接点

葬儀や法事が終わった後も、死者と生者とは何らかのかかわりを持って暮らしています。日常生活の中でも、仏壇や遺影・墓を参り、祖先をまつことは、この世に残された人々が、あの世に行った死後の靈魂と交流を持って生きているからと言えるでしょう。



浄土真宗の仏間 原町区押釜 林家

■関連講座 市史を読む
「彼方の世界をどうみてきたか
—私たちの他界観・来世観—
11月15日[日] 13:30～15:30

講 師：岩崎真幸氏
(みちのく民俗文化研究所代表)
定 員：申込制先着25人
受付開始：10月18日(日)～

新型コロナウイルス感染防止のため、マスクの着用などに御協力ください。感染の拡大状況によっては、予定を中止など変更する場合があります。

南相馬市博物館

〒975-0051 福島県南相馬市原町区牛来字出口194 TEL 0244-23-6421 FAX 0244-24-6933 <https://www.city.minamisoma.lg.jp>

開館時間／9:00～16:45(最終入館 16:00まで) 休館日 毎週月曜日

観 覧 料／一般 400(350)円 高校生 200(150)円 小中学生 100(80)円 (20人以上の団体)

障がい者(手帳をご提示ください)、南相馬市と飯館村に居住・通学する小中高校生は無料。11月3日(火)文化の日は無料。

企画展

めい かい
冥界へようこそ
—仏画・幽霊画などからみた死生観—

令和2年

10月1日[木] — 11月29日[日]

仏教特に浄土教では「南無阿弥陀仏」と念仏を唱えれば、人が亡くなると極楽浄土から阿弥陀仏が迎えに来てくれると考え、来迎図を掛けて往生を祈りました。

しかし、生前に悪行を行った者は、三途の川で十王に裁かれ、地獄で責苦を受けると考えました。地獄図や十王像は盆や彼岸にお寺で

公開・絵解きが行われ、仏教の地獄極楽思想は日本人の心に大きな影響を与えてきました。

一方、死者の霊が成仏できずに現れるといわれるのが幽霊です。江戸時代には演芸や演劇などで怪談が人気となり、多くの幽霊画が描かれました。

死は誰にでも訪れます。死に

対して家族・親族・地域社会は葬送習俗という形でさまざまな対応を行い、死者の魂の救済を願ってきました。

本展では、こうした日本の伝統的な死生観や他界観を仏画・幽霊画・民俗例などから紹介します。

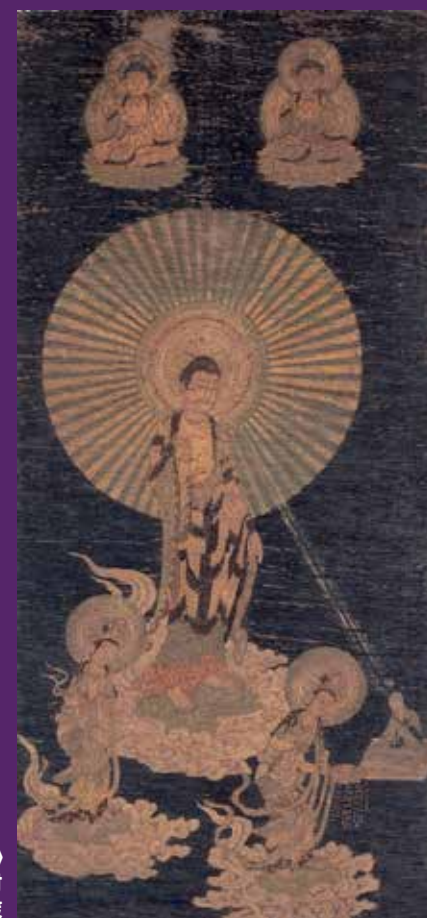
■往生と来迎の祈り

人は死ぬとどうなるのでしょうか。その疑問は古代から人々を不安にさせてきました。仏教の浄土思想が隆盛すると、臨終の場に阿弥陀如来や十三仏・二十五菩薩の図や像を置いて来迎の状況を作り、死者を浄土へ導いてくれることを願いました。

浄土あるいは他界は天上や山中・海上にあると考えられてきました。



阿弥陀さま



《刺繍阿弥陀三尊来迎懸幅》
福島県指定重要文化財
阿弥陀寺蔵

■『^{そうみょうたつ そ せいちゅうき}僧妙達蘇生注記』にみる往生説話

平安時代に、出羽国(山形県)の龍華寺(善宝寺)の僧妙達が死んで死後の世界を見聞きしたが、閻魔王に許されて生き返ったという説話。その中に、行方郡(南相馬市)の郡寺の僧真義^{とうりてん}が忉利天という天界に往生したという記事があります。

《刺繍阿弥陀名号掛幅》
国指定重要文化財
阿弥陀寺蔵



《山越阿弥陀三尊来迎図》 福島県指定重要文化財 日光寺蔵(複製展示)



■^{さん す}三途の川と^{えん ま だいおう}閻魔王

人が死ぬと真黒な闇の世界に落ち、あの世とこの世の間の世界を進む^{ちゅうう}中有の旅に出ると考えられてきました。道中は死出^{しで}の山を越え、三途の川を渡り、閻魔王ら十王の裁きを受けます。そして、生前の行いにより、亡者が六道という六つの世界のどこへ行くか決められると考えられてきました。



閻魔さま



十王像・優婆塞像(前列左端) 浄園寺蔵



《六道絵 地獄(部分)》 金性寺蔵

■^{ろく どう}六道

六道は次の六つの世界に分かれています。天道は非常に楽しい世界。人道は苦も楽もあるこの現世。修羅道は常に怒り、戦争が続く世界。畜生道は弱肉強食で常におびえる世界。餓鬼道は空腹に苦しむ世界。地獄道は苦しみの極限の世界です。



《修羅道絵巻(部分)》 渡辺義夫氏蔵



《地獄絵 阿毘至大地獄のうち鉄車(模写)》 安堵蒼樹写 金性寺蔵

■^{ゆう れい}幽霊

人が亡くなり、その霊に対して供養が十分でないと、死霊は怨霊となるか無縁仏化するといわれます。幽霊は死者が成仏できないためにこの世に現れるとか、怨念を晴らすために怨み相手の前に現れる死者の浮遊霊といわれます。



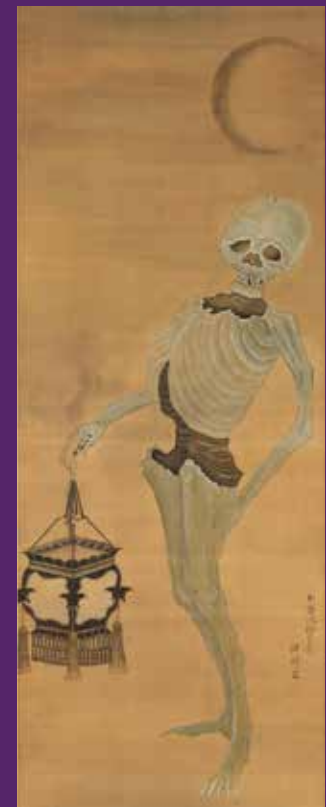
幽霊



《幽霊図》 松鱗 金性寺蔵



《牡丹灯籠》 門井掬水 金性寺蔵



《骸骨と月図》 駒井源琦 金性寺蔵



《柳下美人幽霊》 金性寺蔵